

平成29年度 調布市立若葉小学校 学校経営計画

学校教育目標	「かしこく やさしく たくましく」 ◎しっかり考え進んで学ぶ子 ・思いやりのある子 ・明るくたくましい子
目指す学校像(ビジョン)	「じぶんでする みんなとする つづける」(自立 協働 継続)
【目指す学校像】	①「生きる力」を育む学校 (知・徳・体のバランスの良い成長) ②協働する学校 (組織力の向上) ③家庭・地域と連携した学校 (家庭・地域との連携)
【目指す子ども像】	「自ら学び、共に学び合う子」 (表現力の育成)
【目指す教師像】	①児童の「生きる力」の基礎を育てる教師 ②自己啓発・切磋琢磨する教師 ③組織の一員としての役割を自覚し、保護者・地域と共に育つ教師
本校の現状と課題	・児童は明るく素直である。6年間一貫指導による基本的な生活習慣の定着及び学力の向上、体力の向上を図る。今年度は、特に表現力(書くこと・話すこと)の育成の重点を置く。 ・若手教員が多いため、校内研究を中心とした研修機会を意図的・計画的に設定し、授業力の向上を図る。また、校内OJTの責任者と対象者を明確にし、組織的な人材育成を図る。 ・保護者・地域の学校への理解・協力度は安定し、地域諸団体の活動・イベントは活発である。「若葉小学校学校支援地域本部」を中心に、保護者・地域人材の活用を図る。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標 ※数値目標が可能な項目について設定する
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 確かな学力の定着を図るため、校内研究を充実させ、授業改善を進める。 家庭学習を勧め、学習習慣の確立を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究を意図的・計画的に進め、児童の表現力の向上、教員の指導力の向上を図る。 学習習慣の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 調布市教育委員会研究推進校として、『自分の考えを生き生きと表現する子供』の育成を目指す。国語科「書くこと」における主体的・対話的に学ぶ活動を通して、自分の考えや思いを生き生きと表現できる児童を増やしたいため、講師を招聘した各学年・専科の研究授業を7回実施する。 ①【授業改善の取組】:「書くこと」の指導過程において、他者との交流活動を進めることで自分の考えを説明する力や質問する力、また、自分の考えを見直したり、広げ、深めたりする力を育てていく。 そのためのスキルとしてのグループ学習について、様々なグループ編成、グループのバリエーションを活用し、主体的・対話的に学ぶを通して書く力を高める指導方法を工夫し、授業改善を図る。また、視覚化・共有化を図る手段としてICTの効果的な活用方法についても研究を進める。 ②【交流環境の工夫】:各教科・領域や日常的な活動の中で、児童が積極的に関わり、意見交流をすることのできる取組や環境の工夫をする。また、他教科においても日常的に自分の考えを伝える 	<ul style="list-style-type: none"> 講師を招聘した校内研究授業を7回実施する。 「表現力向上」に関する保護者アンケートA(よい)評価70%以上を指標とする。 児童アンケートの書くことに苦手意識をもつ児童を15%以下とする。 児童アンケートの話すことに苦手意識をもつ児童を20%以下とする。 読書が好きな児童を各学年95%以上とする。
健全育成	<ul style="list-style-type: none"> 命を大切にする態度、規範意識を身に付けさせる教育を推進する。 人権尊重を基盤に、他者とのかわり方を身に付けさせ、よりよい人間関係づくりをしようとする意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に命の大切さを指導する。 集団生活のルールとして、①あいさつをする②話をきく③時間を守る④仕事をし⑤人のいやなことを言わない⑥5つを守らせる。 「わかばっ子」(生活指導の手引き)の家庭への周知・連携を図る。 異学年集団による児童の活動を充実させる。 いじめの未然防止、早期発見・早期対応を図る。 特別支援教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の宿題を共通にし家庭学習(学年×10分)の定着を図る。宿題については各学年の系統性を考慮する。高学年は自学学習も進める。4月の保護者会で「家庭学習と学力」について周知する。 防災教育の日は「災害と命」、道徳授業地区公開講座では「人のかかわり(いじめ)と命」、12月は「命と心」について、校長講話・全学級道徳授業を実施し年間を通して命の大切さを指導する。 集団生活の5つのルールについては、校長講話や日常の教育活動の中で継続して指導する。 新1年保護者会、各学年の年度初めの保護者会で、「わかばっ子」のねらい、「6年間一貫指導」の効果について説明し、保護者啓発と協力を依頼する。各学級で「わかばっ子」の月目標の確認と振り返りを行い、具体的な取組を実践させる。また、わかばっ子の中に「SNS専科」としての家庭学習も進める。 各教科、道徳、きょうだい学年や隣接学年の取組、行事、校長講話などを通して、互いに違いを認め合う心、自分も友達も大切にする心を育てる。人のかかわり方について日常的に指導する。 いじめアンケートを年3回実施。いじめ予防、早期発見・いじめ対策委員会による早期解決を図る。 校内委員会を定期的に開き、配慮児童に対する支援方法等について検討し、実践につなぐ。特別支援教室専門員を活用し、通級指導学級担当による円滑な巡回指導・学級担任との連携を進め 体力向上に関する「1学級1取組」、体育科授業の工夫・充実を図るため講師を招聘し指導方法を学ぶ機会を設定する。握力の向上を図ため、日常的に「もつ、にぎる、しほる」活動を増やし、家庭にも協力を呼びかける。クラス遊びや30分遊びを奨励し、日常的な体力向上へつなげる。 オリンピック・パラリンピック教育推進校として年間35時間の取組を計画的に実践する。「世界とまだプロジェクト」における交流対象国(5カ国)への理解を深める。オリンピックとの交流の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭学習」に関する保護者アンケートのA(よい)評価を60%以上、児童アンケートの達成度を90%以上とする。 集団生活の5つのルールについて、それぞれの児童達成度を80%以上とする。 「わかばっ子」については、保護者アンケートのE(分からない)評価を5%以下とする。 「心を育てる教育」に対する保護者アンケートのA(よい)評価60%以上を指標とする。 きょうだい学級の児童の満足度を90%以上とする。 各学級における児童満足度を90%以上とする。
つく健康・体力	<ul style="list-style-type: none"> 児童の体力向上、オリンピック・パラリンピック教育を推進する。 事故や災害から身を守る教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科体育・体育的活動などを活用し、体力向上に取り組みさせる。 オリンピック・パラリンピック教育を計画的に実践する。 食物アレルギー等への認識を深め、校内対応の組織化、徹底化を図る。 健康な体づくりへの意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「体力向上に関する1学級1取組」、体育科授業の工夫・充実を図るため講師を招聘し指導方法を学ぶ機会を設定する。握力の向上を図ため、日常的に「もつ、にぎる、しほる」活動を増やし、家庭にも協力を呼びかける。クラス遊びや30分遊びを奨励し、日常的な体力向上へつなげる。 オリンピック・パラリンピック教育推進校として年間35時間の取組を計画的に実践する。「世界とまだプロジェクト」における交流対象国(5カ国)への理解を深める。オリンピックとの交流の推進。 食物アレルギーへのルールに基づく組織的対応、年3回の緊急対応訓練、水泳指導やエンジョイススポーツ前の心肺蘇生訓練を実施し、非常事態に備える。 児童には、食物アレルギーやけが・事故・災害などから「身を守る」教育を実践する。 手洗いやうがい、ハンカチ携帯、保健学習や身体計測時のミニ授業を通して、健康意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「体力向上」に対する保護者アンケートのA(よい)評価を65%以上、児童満足度を80%以上とする。 体力調査ではTスコアが50以下の項目を減らす。 年間35時間のオリンピック・パラリンピック教育を実施する。 食物アレルギー事故を起こさない。 大きな事故を起こさない。 健康な体づくりへの意欲を高めた児童を80%以上とする。
と保護者携・地域	<ul style="list-style-type: none"> 児童の活躍する姿を紹介し、学校教育への関心を高めていく。 個人情報保護、交通事故防止、防犯等に関する取組を実施し、安全・安心な学校づくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や学校の取組への保護者の参加・協力を進める。 表現活動などの発表を通し、児童の活躍する姿を公開する。 家庭と連絡し、個人情報の保護・管理を進める。 交通事故やネットトラブル・犯罪等に巻き込まれないように保護者・地域と連携する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「保護者読み聞かせ」は各学級12回以上とする。4月の保護者会で読み聞かせ可能日を伝える。 毎月教育活動を公開し、児童の活躍する姿を伝える。また、学校だより、学年だより、学級だより、ホームページなどを通して、保護者に学校や学級の様子を伝える。各家庭が用意するもの(図工の材料など)のお知らせは早めにする。8月末を目途に新ホームページに変える。 各学級の連絡網を廃止し、学校からの必要な情報は「学校安全・安心メール」を活用する。また、個人情報にかかわる学校と家庭との連絡は「個人用の茶封筒」を活用する。 都道(調布3・4・17号線)の開通に伴い通学路を変更し、交通事故に巻き込まれないようにする。 児童がいじめなどのトラブルや犯罪に巻き込まれないために、インターネットや携帯電話などのSNSの利用に関する「家庭ルール」づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「行事や日常の教育活動を通した一人一人の良さを伸ばす指導」のA(よい)評価を70%以上とする。 「情報の発信」に関するA(よい)評価を65%以上とする。 8月末までに新ホームページを立ち上げ、活用できる。 学校安全・安心メールによる連絡、個人情報保護に関する茶封筒の活用をする。 交通事故を起こさない。通学路を変更する。 「個人情報の保護、安全指導や事故防止」に対する保護者アンケートのA(よい)評価(よい)60%以上を指標とする。
教育特色活動	<ul style="list-style-type: none"> 「若葉小学校学校支援地域本部」を充実させ地域の環境や保護者・地域の教育力を生かした教育活動を展開する。 PTA活動、地域行事等に対する教職員の意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者・地域の教育力を教育活動に生かす。第四中学校・地域と連携した防災への取組を進める。 地域行事などに児童・教職員を参加させ、地域と連携・協力する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「若葉小学校学校支援地域本部」の支援会議を5月に開き、1年間を見据えた活動の連絡・調整を行う。「サマーチャレンジわかば」や「ホタルプロジェクト」などの地域の特性を生かした活動を継続する。毎週水曜日に算数補習教室(「にこにこ算数教室」)を実施する。「四つ葉学校防災協議会」を定期的に開き、地域防災への取組を進める。 今後も「若葉の社の音楽祭」「夏祭り」「地域運動会」「新春お茶会」「スキー教室」などの地域行事への児童・教職員参加を進め、保護者・地域と連携する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「若葉小学校学校支援地域本部を活用した教育活動」に対する保護者アンケートのA評価(よい)を70%以上とする。 保護者・地域・コーディネーターの満足度を80%以上とする。 「学校の地域行事への協力度」に対する保護者アンケートのA(よい)評価を70%以上とする。